

地域の医療機関をつなぐ 医療情報ネットワーク ”うおぬま・米ねっと”



登録
無料

現在約17,000人
の方から登録い
ただいております。



緊急搬送時に役立つ医療情報ネットワーク ”うおぬま・米ねっと”へ登録しましょう。

「うおぬま・米ねっと」は、診療情報を共有する仕組みです。検査結果やお薬の情報などを、参加医療機関同士で共有できます。緊急搬送時には、これまでの記録が参照できるので、適切な準備をして到着を待つことができます。



申込方法

【利用申込書】市役所・町役場、うおぬま米ねっとに参加している病院や一部の診療所・薬局に用意してあります。また、事務局への郵送請求やホームページからダウンロードすることもできます。

【提出】事務局、市役所・町役場に持参してください。なお、郵送で提出するときは、本人確認のため免許証や保険者証等の写しを添えて事務局まで送付してください。

【お問合せ先】〒949-7302 南魚沼市浦佐 4132 (魚沼基幹病院内)
NPO 法人 魚沼地域医療連携ネットワーク協議会 (うおぬま・米 (まい) ねっと) 事務局

魚沼基幹病院 インフォメーション



正面駐車場屋根(キャノピー)が 完成、正面駐車場も拡大しました。

これまで魚沼基幹病院の玄関には屋根がなく、降雨時や降雪時にはご迷惑をおかけしておりましたが、昨年12月に屋根(キャノピー)が完成いたしました。乗降用のスペースも設けましたので、是非ご利用ください。

また、同じく昨年12月に正面駐車場を拡大。消雪設備を備えた駐車スペース187台が新たにご利用いただけます。このほか、今年秋にはさらに96台分の拡張工事を予定しています。

正面玄関屋根(キャノピー)&乗降用ロータリー
ゆきくに大和病院
魚沼基幹病院
▲正面駐車場187台 拡大工事完了

新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院
南魚沼市浦佐 4132 番地
025-777-3200(代)



うおぬま通信

第5回

保存版

[発行] 新潟県 2017年3月 第5回「改めて考える“地域全体でひとつの病院”と今後」



医療再編からもうすぐ2年！いま、改めて見直す。

“地域全体でひとつの病院”とは？



魚沼地域
医療の輪
地域全体でひとつの病院

医療再編が目指したもの
～「役割分担」と「紹介という名の連携」～

魚沼基幹病院、魚沼市立小出病院、南魚沼市民病院の開院など、2015年6月に始まった医療再編も、もうすぐ2年を迎えています。地域住民がずっとこの魚沼地域で医療が受けられるようにするため、地域完結型の医療を目指してスタートした医療再編は、今もまだ歩みを続けています。魚沼基幹病院に設置された救命救急・外傷センターでは、1日おおむね40人前後、多い日で60～90人の救急患者さんが受診・搬送されています。同時に、これ

までは長岡まで行かないと受けることができなかった高度医療も受けられるようになりました。しかし、全ての症状の患者さんを魚沼基幹病院で受け入れてしまえば医師や看護師、その他医療スタッフが対応できません。そのために、地域全体で役割分担をすることになりました。かかりつけ医やお近くの医療機関では、普段の健康管理や初期医療を担います。市立小出病院や南魚沼市民病院、市立ゆきくに大和病院では、初期から入院と

いった一次、二次医療を担います。そして、魚沼基幹病院では三次救急と高度医療、周産期医療を担い、ほとんどの医療が魚沼地域の中で完結できるように取り組んできました。一方、役割が明確になった医療機関を結ぶのが『紹介』という連携です。～実際にあった例～
胸が痛くてかかりつけ医を受診したところ、魚沼基幹病院を紹介され、手術が行われました。その後しばらく入院していましたが、症状が落ち着いてき

たので、かかりつけ医のところに(逆)紹介されることになりました。この事例のように、『紹介』という連携により、症状に応じて一人の患者さんをいくつもの医療機関で診察することを、私たちは「地域全体でひとつの病院」と呼んでいます。魚沼で行われた医療再編は、全国からも注目されており、スタートから2年が経過しようとしている今でも、他県からの視察が途切れることはありません。目的の完遂まではまだまだ時間がかかりますが、一歩ずつ前へ進めて参ります。

医療再編、これまでの歩み

□ 救急車の長岡への流出は減少

地域初となる救命救急・外傷センター（魚沼基幹病院）には救急の専門医が常に勤務。三次救急（命に関わる重篤な救急）にも対応できるようになりました。また、二次救急（入院を要する場合）や一次救急（帰宅可能な場合）は、魚沼基幹病院だけでなく、市立小出病院、南魚沼市民病院、齋藤記念病院、湯沢町保健医療センター、県立十日町病院などでも受け入れを行っております。これら医療機関の取り組みによって、長岡など圏域外への救急搬送が減少し、救命救急医療の迅速性は高まっています。

□ 魚沼で初めての医療 ～新生児集中治療、放射線治療～

魚沼基幹病院に設置された新生児集中治療室（NICU）では、これまでに多くの未熟児を受け入れてきました。このような施設があることで、安心して魚沼地域でお産ができたという声もありました。また、放射線治療では最新の医療機器が導入されています。これからも、この魚沼地域の中で高度専門医療を受けることができるよう、地域完結型医療への貢献に努めてまいります。

□ 高い病床利用率

再編を機に、これまで長岡地域などの圏域外で治療されていた患者さんが魚沼地域での治療を選択するケースが増えました。加えて、再編による病床変動もあり、各病院の病床利用率は県平均を大きく上回っています。各病院では、多くの患者さんを受け入れるために努力しておりますが、場合によっては他医療機関への受診や転院などをお願いすることもあります。

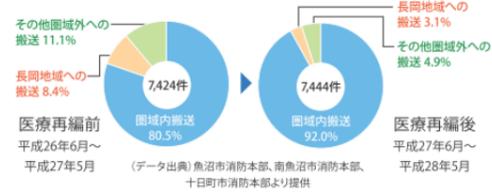
□ 役割によって異なる各病院の平均在院日数

各病院の平均在院日数は、その役割によって異なります。魚沼基幹病院は高度医療・三次救急医療を担う医療機関です。重症期や目が離せない時期などは同院で治療を行いますが、症状が安定してきたら他医療機関への転院や退院をお願いし、また次の重症患者さんや高度医療が必要な患者さんの受け入れに備えます。一方で、市立小出病院、南魚沼市民病院、市立ゆきぐに大和病院は初期医療や慢性期医療などを行っています。その性質上、平均在院日数が長めですが、中でもなるべく多くの患者さんを受け入れるため日々取り組んでいます。

□ 魚沼基幹病院からの医師派遣

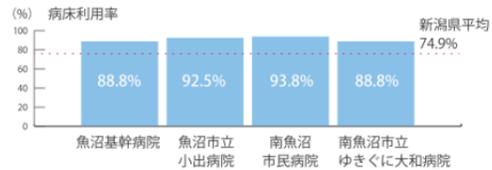
再編にともない、いくつかの診療科では魚沼基幹病院から市立小出病院、南魚沼市民病院などに合わせて30名以上の医師を派遣しています。また、魚沼基幹病院には、これまで魚沼地域には常勤医師のいなかった診療科が設置されており、そういった診療科の医師を派遣することで、お住まいの近くでも診療を受けることができる体制を構築しました。

魚沼地域における救急搬送先内訳



新生児集中治療（NICU） 放射線治療装置リニアック

再編病院の病床利用率（一般、平成29年2月）※速報値



再編病院の平均在院日数（一般、平成28年12月～平成29年2月）※速報値

病院	平均在院日数
魚沼基幹病院	11.9日
魚沼市立小出病院	19.2日
南魚沼市民病院	17.4日
南魚沼市立ゆきぐに大和病院	19.0日



新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院

途切れることなく重症患者を受け入れ



病院長 内山 聖

魚沼基幹病院は一昨年6月に開院し、まもなく2周年を迎えます。全国に類をみない大規模な医療再編の目的は、魚沼地域に住む人たちが病気になるたびに、軽くても重くても、すべてこの地域のなかで安心して医療を受けることができる「地域全体でひとつの病院」の実現です。

このためには、それぞれの病院や診療所が役割分担をし、お互いに協力しあうことが大切です。魚沼基幹病院は、三次救急、高度先進医療、周産期医療、精神科医療など、地域のほかの病院にない役割を担っています。実際、地域医療の砦として、途切れることなく重症患者さんが入院しています。とはいえ、人員の関係でまだ3つの病棟を開くことができていません。重症患者さんを受入れるために、病状が軽い、あるいは病状が安定した患者さんには、ほかの病院に転院してもらう必要があるのが現状です。一方で、これも「地域全体で一つの病院」のあり方ではないかと思っています。

まだ十分に力を発揮できていないものかしさがありますが、一歩、一歩、着実に前に進んでいる実績も数字に表れており、これからも住民の皆さまのご理解とご協力のほどをお願い致します。

魚沼市立小出病院

みなさんと作る新しい魚沼の医療 ～整形外科の例から～



病院長 布施 克也

2025年の保険・医療・介護のかたち「地域医療構想」が全国各地で議論されています。魚沼の地域医療構想はまさに「魚沼医療再編成理念の実現」です。高度医療・専門医療を担う魚沼基幹病院と、それぞれの生活圏で医療・地域包括ケアを担う病院群が「地域全体でひとつの病院」を合言葉に、役割分担と連携システムを作り上げようとしています。実際に動き始めた「地域全体でひとつの病院」の仕組みについて、整形外科診療を例に見てみましょう。再編前から1年間（平成27年6月～平成28年5月）で234人の魚沼市民が骨折などで基幹病院に入院されました。入院後、術後リハビリテーションなどを目的に、基幹病院からほかの病院に転院した方が56人いましたが、このうち36人（64%）は小出病院へ転院され、当院から退院されました。再編2年目となり、魚沼市民で転院が必要な方の75%を当院で受け入れることができるようになりました。このように、急性期や手術は基幹病院、リハビリや退院などの諸調整は地元の病院で、退院後はまたかかりつけ医が健康管理にあたるという仕組みができつつあります。

まだ始まったばかりの仕組みですが、次世代に安全と安心を引き継ぐための社会資本となるシステムです。このシステムを支える医療情報ネットワーク（うおぬま・米ねっと）とあわせ、地域のみなさんと協力して、新しい魚沼の医療を作り上げていきたいと考えています。ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

「地域全体でひとつの病院」のために 地域の皆さまにお願いがあります。

□ 症状に応じて、他医療機関へ転院していただく場合があります。

魚沼基幹病院では、高度医療や三次救急を必要とする患者さんを受け入れるため、病床を確保しなければなりません。重症期を脱した患者さんや症状が安定した患者さんは、他の医療機関への転院や早期退院をお願いする場合があります。

□ 救命救急センター（魚沼基幹病院）が満床の場合、長岡地域への搬送をお願いする場合があります。

魚沼基幹病院では、救命救急センターで受け入れた重症患者さんを集中治療室で治療した後、ある程度まで回復した後に一般病棟へ移っていただくケースがあります。このとき、一般病棟が満床だと集中治療室から移ることができず、その結果、集中治療室が空かず次の重症患者さんの受け入れができない可能性があります。そういった事態が起きないように、重症期を過ぎた患者さんの病床移動や転院、早期退院をお願いしておりますが、やむを得ず満床で救急患者さんの受け入れができない場合は、長岡地域への救急搬送をお願いする場合があります。



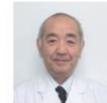
魚沼地域では、看護職員が不足しており、Uターンを進めています。県外の病院に勤務されているお知り合いの方がいらっしゃいましたら、お声がけいただくなど、皆さまのご協力をお願いします。

4月以降の推移

再編前	再編後（平成28年11月）		29年4月～
	魚沼基幹病院	308床→328床 冬期間の外傷対策で20床増床（平成28年11月～）	328床→308床 冬期前の病床に戻す
県立小出病院	383床	魚沼市立小出病院	90床 療養病床44床を稼働
魚沼市立堀之内病院	80床	魚沼市立堀之内病院	50床 病床廃止 内科外来と訪問診療等の継続
県立六日町病院	199床	南魚沼市民病院	140床
南魚沼市立ゆきぐに大和病院	199床	南魚沼市立ゆきぐに大和病院	40床

南魚沼市民病院

より多くの患者さんを診療するために、訪問診療にも注力



病院長 田部井 薫

魚沼地域の医療再編が始まって1年半がたちました。南魚沼市民病院は、「地域全体でひとつの病院」のコンセプトのもと、役割としては、予防医療、初期治療に加え、終末期医療にも重点を置いて診療しています。

入院ベッドは140床ですが、病床利用率は90%以上で、常にベッド不足に悩まされています。ベッドの不足を補うために、訪問診療を精力的に行っています。往診患者は現在63人です。2016年4月～12月までの集計では、市民病院で亡くなった方は148名ですが、その内30%程度が自宅での看取りでした。厚生労働省在宅医療推進室の集計によりますと、「自分が亡くなる時には、自宅で家族に見守られながら息を引き取りたい」という希望は、60%あると言われています。しかし、現実的には自宅で亡くなる人は全国では12.4%です。

南魚沼市では、訪問看護ステーションも充実しており、老人施設もまだ十分でないとはいえ、かなり充実しています。さらに、往診体制も市民病院のみならず、開業医の先生方も積極的に行っており、全国的にも極めて恵まれた環境にあると思います。先進医療を担う魚沼基幹病院と連携して、よりよい地域医療を提供していきたいと思っておりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

南魚沼市立ゆきぐに大和病院

2月より地域包括ケア病床を導入、在宅復帰をサポート



病院長 松島 一雄

市立ゆきぐに大和病院が40床の病院となってから1年4か月が経過いたしました。この間、院内の配置転換や駐車場整備工事などいろいろな面でご不便をおかけしましたが、皆さまのご協力により大きな混乱もなく診療を継続できており、あらためて感謝申し上げます。

さて、当院は本年2月より一般病床40床のうち15床を地域包括ケア病床へと転換いたしました。地域包括ケア病床は、
・急性期病院（病床）からの転院に対応する
・在宅、介護施設で療養中の急な変化に対応する
・在宅、介護施設への復帰と療養継続を支援することを目指す
ことを目的とした病床で、主治医、看護師、リハビリセラピスト、退院支援職員、医療ソーシャルワーカーなどが連携して、患者さんの在宅復帰をサポートしていくものです。

例えば、魚沼基幹病院などから急性期医療を経過した患者さんを受け入れ、当院では患者さんが在宅や介護施設へ復帰できるよう医療やリハビリを提供する。このように病院同士がお互いに連携し合うことで「地域でひとつの病院」が実現していくものと考えております。当院の理念は「地域住民の「生きる」を支える」です。患者さんが退院しても必要に応じて訪問診療を行い、その人らしい生活ができるよう、共感を大切にし、支援してまいりたいと思っております。